

TRANS STORY

~改造編~

オンナたちは……、マモノへと姿を変える……。

～はじまり～



太古の昔より、剣と魔法の力によって、
繁栄を謳歌していた大陸「アルガム」。

しかし、突如現れた
「マオウ」と呼ばれる者によって、
大陸は混乱の時代を迎えていた…。

マオウは、「マ素」と呼ばれる
特殊なエネルギーを使い……、

人々を恐ろしい姿の「マモノ」に変貌させ、
自身の配下として操り、
各地の国々を攻め立てたのだ…。

A golden-hued landscape with mountains and a river. The scene is bathed in a warm, golden light, suggesting a sunrise or sunset. The mountains in the background are layered and hazy, creating a sense of depth. A river or stream flows through the foreground, reflecting the golden light. The overall atmosphere is serene and majestic.

人々はなすすべもなく、
ただ滅亡への一步をたどりながら
英雄による救済を祈りつづけました…

そして、今……

異世界より召喚された一人の若者が
世界を救うために降り立ったのであった…。



人々はその若者を…、

マオウを倒しこの大陸を救うことのできる
“ユウシヤ”と呼んだ……。

マオウ城周辺





ユウシャ
「ついに…、ここまで来たよ……、みんな…。」



セレン
「はい…、ユウシャ様……。」



シズ

「……………長かった。」



カウラ
「ホントにな…、ハハハッ♪」



ボクは『ユウシャ』……。

みんなからそう呼ばれている…。



なぜ、ボクが『ユウシャ』と
呼ばれているのか……、



それは、この世界の『マオウ』と呼ばれる
悪しき存在を倒すために、

ここにいる、聖騎士のセレンによって
異世界より召喚されたためだ…。



召喚の影響か…、
ボクには前の世界の記憶がない……、



最初のころは、自分の名前も思い出せず…、

なにがなんだか わからなくて
不安で仕方なかったけど…、



ともに旅する この仲間たちのおかげで、

最後の舞台…、
マオウ城の目の前まで、
たどり着くことができたのだ…。



セレン

「思えば、いろいろのことがありましたね…。」



ユウシャ

「うん…、本当にここまで来るのに大変だった…。
とくに、セレンには いろいろ迷惑ばかりかけたよね…。」



セレン

「迷惑だなんて、そんな…」



セレン

「ユウシャ様のおかげで、
ワタシ達はここまで来ることが出来たのです…。」



セレン

「感謝の想いでいっぱいですよ。」



ユウシャ
「いいや…、セレン……、
ボクの方が実は凄く感謝してるんだ…。」



セレン
「え？」



ユウシャ
「ほら…、
まだ ボクが、召喚されたばかりのころ…、」



ユウシャ

「なにがなんだか わからず
いろんな人から期待されて
プレッシャーで心が沈んでたとき、」



ユウシャ
「セレンは、ボクを励ましてくれたじゃん？」



ユウシャ
「あの時、本当にボクは救われたんだよ？」



セレン

「……………」



ユウシャ
「それで…、思ったんだ……、ボク……。」



ユウシャ
「この人を救おう…、
この人の世界を救おうって……。」



ユウシャ

「セレンがいてくれたから、今のボクがいるんだよ？」



セレン

「////////////////////」



カウラ

「ヒューヒュー♪ お暑いね～♪ 二人とも♪」



セレン

「も、もうカウラっ！ からかわないでよ！！」



ユウシャ
「アハハハハツ…♪」



シズ

「……………」



シズ

「……ねえ、ユウシヤ？」



ユウシャ
「ん？ なんだい？ シズ？」



シズ

「シズとカウラには感謝してないの？」



カウラ

「オっ？ そうだ！ そうだ!!

オレ達には、なにもないのかよ!!」



ユウシャ

「も、もちろん、二人にも感謝しているよ！」



ユウシャ

「シズは、いつも魔法で、トラブルばかりしてたけど……、
ここぞってときには、いつも助けてくれた…。」



シズ

「ソフ〜♪ ユウシャ…、成長した…。」



ユウシャ
「カウラは…、なんていうか、」



カウラ
「うん？」



ユウシャ

「いつも、ハチャメチャで、姉御肌というか、
このパーティのムードメイカーな存在？みたいな…」



カウラ

「お、おい！？ それって褒めてるのかよ！？」



ユウシャ

「アハハ…、褒めてるって…、
特に戦闘の面では頼りにしてんだから！
凄腕のバウンティハンターさん♪」



カウラ

「んん〜…、なんか釈然としね〜な〜…。」



ユウシャ
「ハッハッ…。」



セレン

「皆さん…、思い出話はこの辺にしときましょう…。」



セレン

「明日の最終決戦に備えて、今日はここで野宿です。」



カウラ

「おう、そうだな！

しっかり休んで明日は体調バッチリにしないと！」



シズ
「うん……。」

A dark, gothic castle silhouette with multiple spires and towers, set against a clear blue sky. The castle is situated on a hill, with a smaller, simpler structure visible in the distance. The foreground is a grassy field.

ザザッ、ザザッ、ザザッ、



ユウシャ
「……………」



ユウシャ
「本当に最後の戦いだ……。」




ユウシヤ

「絶対…、みんな生きて勝とう……。」



カウラ

「オ～イツ！なにやってんだよ!!ユウシャ!!!
こっち来てテント張るの手伝え～っ!!!!」



ユウシャ
「あ～、うん！ 今いくよ!!!」

????

「.....」

????

「フフ……。」

夜





カウラ
「ンガ～ヒュ～zzz。」



シズ
「ンン…zzz。」



ユウシヤ

「……………」



セレン
「眠れないのですか？」



ユウシャ
「セレン？」



セレン

「敵の心配なら大丈夫ですよ？
シズが結界を張っていますから…。」



ユウシャ
「ああ、ごめん。違うんだよ…。」



ユウシャ

「明日は大事な決戦だとおもうとね…
なんだか緊張しちゃってさ……。」



セレン

「…………ユウシャ様…。」



セレン
「…………。」



セレン
「本当に…ごめんなさい……。」



ユウシャ

「え！？ ど、どうしたんだよ？急に…？」



セレン

「ワタシがユウシャ様を呼んだために…、
こんな危険なことばかり巻き込んでしまいました…。」



セレン

「ホント、迷惑ばかり……、

いくら謝っても許されることじゃありません……。」



ユウシヤ
「なんだよ？いまさら…
ボクは別に迷惑なんか……。」



セレン

「いいえ…、それはユウシャ様にご記憶がないから言えることなんです。」



セレン

「本来、ユウシャ様には
ユウシャ様の世界の生活があったはずです…。」



セレン

「それを私は……、

こちらの世界の都合をユウシャ様ばかりに押し付けて……、」



ユウシヤ
「セレン……、」



ユウシヤ
「…………。」



ユウシャ
「さっきもいったよね？」



セレン
「えっ？」



ユウシャ
「ボクはこの世界を…、」



ユウシヤ

「セレンが暮らす この世界を救いたって……。」



セレン

「ですから、それはユウシャ様の記憶が…、」



ユウシャ
「記憶なんて関係ないよ！」



セレン
「!？」



ユウシャ
「ボクは『いま』を生きているんだ…。」



ユウシャ
「『いま』いるこの世界が…。」



ユウシヤ
「セレンが…好きなんだ…。」



セレン

「…………ユウシャ様…。」



ユウシヤ
「セレン…、
もうお互い謝るのはやめよう…。」



ユウシャ
「ボクはセレンと対等な関係になりたい…。」



セレン
「……えっ？」



ユウシャ
「この戦いが終わったら一緒に暮らそう…。」



セレン

「…………ユウシャ…さま……。」



ユウシヤ

「たとえ記憶が戻ったとしても
ボクは、ずっと君のそばにいることを誓うよ…。」



セレン

「……………ハイ。」



ユウシヤ
「セレン……。」



セレン
「……ユウシヤ様。」



ユウシャ
「……………」

ザバツ



セレン
「ん……。」



ユウシャ
「んん……ん……。」



セレン
「ンン……ンチュン…
レロオ……。」



ユウシャ
「ン…クチュ…ンチュ…、」



セレン
「ンン…ン…っんああ…、」



セレン
「ハア…、ハア…、
ユウシャ…さま…。」



セレン
「ワタシ…もう…」



ユウシヤ
「ハア…ハア…ハア…。
セレンツ…」



セレン
「ん……」



?????

「プ〜クスクス♪ 決戦前にエッチとか〜。」
マジ死亡フラグ〜♪」



ユウシャ

「! ?」



セレン
「だ、誰!？」



?????

「はっ！？ ヤバッ！？

あまりにも無防備だったから、
つい、声にでちゃった！？」



セレン
「…………。」



?????

「まあ、気づかれちゃったらしかたないか♪」



ザザッ



?????

「フッフッフッフッフ〜♪ こんにちは〜♪」



セレン
「マモノ!？」



?????

「ただのマモノじゃね～ぞ…、」



?????
「アタシは……………」



カウラ

「だりゃあああああああつ!!!」



ブンツ



?????

「うおっ!? あっぶね~なっ! いきなりっ!!!」



シズ
「大丈夫？ 二人とも？」



セレン
「う、うん平気だよ…」



ユウシャ
「なんなんだ、コイツ…」



カウラ

「気をつける、みんな…。」



カウラ

「シズの結界を破り、俺の攻撃を軽く避けたんだ…。
コイツ、ただもんじゃねーぞ…。」



?????

「へへッ♪ そのとお～りさね♪

聞いて驚くなよ～♪」



?????

「アタシはマオウ様直属の配下である…
暗黒四天王の1人……。」



メツカ

「不死鳥のお～メツカ様でえい!!!」



セレン
「し、四天王！？」



ユウシャ

「マオウの部下にそんな奴らが出たなんて……！？」

A character with short red hair, pointed ears, and a confident smile. She has large, feathered wings that are white at the base and transition to red and orange at the tips. She is wearing a dark green choker and has large, circular, ring-like ornaments on her breasts. She is standing on a wooden platform. The background is a dark, atmospheric landscape with a purple and red sky.

メツカ
「へへんっ♪ ど～だ！ 驚いたか!!」



カウラ

「フンツ、別に驚くほどのことでもねえよっ!!

ラスボス戦の前に中ボスは当たり前のことだからな…。」

A character with short red hair, large breasts, and a surprised expression. She has large, feathered wings that are red and orange. She is wearing a dark choker and has a small white mark on her forehead. The background is a dark, purple and red sky with a dark landscape below. The character is standing on a wooden platform.

メツカ
「ちゅ、中ボス!？」



カウラ

「それに、暗黒…四天王だっけ？
そういうので、一番最初に出る奴ってのは、
大抵最弱だって昔から決まってるんだよ。」

A character with short red hair, pointed ears, and large, multi-colored wings (red, orange, and yellow). She has a determined, slightly angry expression with narrowed eyes and a small frown. She is wearing a dark choker and has large, circular piercings on her breasts. Her wings are spread wide, and she appears to be standing on a wooden surface. The background is a dark, atmospheric landscape with a purple and red sky.

メツカ

「なっ！？ お、お前ふざけんなよ!!

その目かっぽじってアタシの姿よく見て見ろ!!!」



カウラ
「はあ？」

A character with short red hair and pointed ears, wearing a red and white feathered outfit. She has large, multi-colored wings (red, orange, yellow) and is standing in a dark, forested landscape at dusk or dawn. She has a confident, slightly smug expression with her eyes closed.

メツカ

「この赤く美しい姿に『不死鳥』こと
『火の鳥フェニックス』の二つ名……。」



メツカ

「赤と炎属性のキャラってのは、昔から最強だって決まってるんだよおお!!」



シズ

「炎属性……、
水魔法が弱点……。」



メツカ
「ぬあっ！？ ば、ばれた！！」



カウラ
「馬鹿だ…。」



ユウシャ
「馬鹿だな…。」



セレン
「馬鹿ですね…。」



メツカ

「う、うるさい!! バカって言う奴がバカなんだよ!!」



カウラ

「はあ…、なんかアホらしくなってきた…」



メツカ

「あああんっ？ スカしてんじゃねえぞ！ 赤髪女!!
アタシとキャラかぶってるくせによお!!!」



メツカ

「はあ！？ かぶってねえよ!!!」



メツカ

「かぶってます～!! ビジュアルが赤いとことか!!
マジで～、二人も赤いキャラはいらないっつ～の！」



カウラ

「なんだとお？この焼き鳥女!!!」



メツカ

「あああっ!! こんにゃろう!!!

言っではいけないアタシの禁句を言いやがったな!!!」



カウラ

「ガルルルルルルルッ!!!!」



メツカ

「ガルルルルルルルッ!!!!」




シズ

「たたかわないの？」

A character with short red hair, pointed ears, and a determined, angry expression. She has large, feathered wings that are red and orange. She is wearing a white feathered skirt and a blue tail. She has a black choker and a ring on her finger. The background is a dark, purple and orange sky with a dark landscape.

メツカ
「戦うわよ!!!」



メツカ
「くそっ!!! 馬鹿にしゃがって……、
もうゆるせねえ!!!!」

A character with short red hair and pointed ears, wearing a red cape and a white feathered skirt. She has a determined, slightly angry expression. The background is a dark, purple-hued landscape with a jagged, stone-like platform she is standing on. The image is framed by a grid of white lines.

メッカ

「四天王一の最速を誇るあたしの戦舞で、

ギッタンギッタンにしてやる!!!」



セレン
「き、来ます!!!」



ユウシャ

「戦闘準備だっ!!!」



カウラ
「オウツ!!」



メツカ

「シヤアアアアアアアアアアッ!!!」

ドウスツ!!!

ズバァアアアンツ!!!

ブシヤアアアアアアンツ!!!



メツカ
「キュウ~~~~。』



ユウシヤ


「フウ…フウツ…

なんとか…、勝てた……。」



シズ

「…………強かった…。」



メツカ
「く、くっそ〜!!
卑怯だぞ!!4対1だなんて〜!!!」



カウラ

「いや…、勝手に挑んできたのはお前だろうが…。」



メツカ
「うぐぐぐぐぐっ……。」



?????

「(なにをやってるのう？メッカちゃ～ん?)」



メツカ
「ゲ、ゲルっち!？」



シズ

「……………テレパシー？」



?????

「(ちゃんと作戦通りの行動をしなさい!!!)」



メツカ
「わ、わかったよ……。クソツ……。」



ゴソゴソ...



メッカは股間から、玉のようなものを取り出した…。



シズ
「マジックアイテム!？」



メツカ
「フッフッフッフッフ……、」



メツカ

「喰らえ!!

ゲルっち 特製の魔法玉でいっ!!!」



シュイイイイン



カウラ

「!? な、なんだ、これ!?」



シズ

「移動式の……魔法陣！？」



セレン

「み、みなさん!! 気をつけてっ!!!」



メツカ
「アア～、シマツタア～～、
手元ガ狂ツチャタヨオ～……。(棒)」



ユウシャ

「!? みんな! ?」



カウラ

「ぐ、ぐあああああああああああつ!!!」



ズ
「んんっ!!!!!!!!!!!!」



ツズ

「ユ、ユウシャさまああああああっ!!!!」



シュン...

シュン.....

シュン.....



ユウシャ
「き、消えた……………！？」



メツカ

「ワァ～、ドウシマシヨウ……、

予定ジャ、ユウシヤに当テルツモリダッタノニ～…。(棒)」



ユウシャ

「お、おい、みんなをどうしたんだ!!」



メツカ
「コレジャア、ゲルっち達ニ 怒ラレチャウヨ～。(棒)」



ユウシャ

「おいっ!! お前!!! 話を聞いて…、」

A character with short red hair, pointed ears, and a green choker. She has large, feathered wings that are white at the base and transition to red and orange at the tips. She is wearing a white feathered skirt and has a long, light blue tail. She is standing on a wooden platform. The background is a dark, purple and red sky with a silhouette of a castle.

メツカ
「って……ことなので～……、」



メッカ

「バイビィ〜〜〜ツ♪」



ビュンツ



ユウシャ

「あっ!? オイツ!! 待てよ!! オイツ!!!」



ユウシヤ

「……………」



ユウシャ

「クソツ!! なんてこんなことに…。」



ユウシヤ

「……………」



ユウシヤ
「みんな…、
どうか無事でいてくれ……。」

アッセクセーナ地帯





カウラ

「ううっ……、痛ててて…。」



カウラ
「んん～？ ここはどこだ……？」



カウラ

「……………」。



カウラ

「.....。」



カウラ

「クソッ…、転移魔法をくらったみたいだな…
かなり遠くへ、飛ばされてやがる…。」



カウラ

「早くみんなと合流したいところだが……、」



カウラ

「.....。」



カウラ

「あああ!!

マジでここはどこなんだよ!!!」



カウラ

「チクショウツ!!! みんなあのトリ野郎のせいだ!!
今度会ったら、マジで焼き鳥に……。」



?????

「でへへへへっ、オンナだあ…♪
オンナのニオイがするら～♪」



カウラ
「あん？ 誰だあ？」



どすっ!どすっ!!どすっ!!!



?????

「デュフヘヘ♪ はじめましてだあ♪」



カウラ

「なんだあ？ この気持ち悪い生物は……？」



?????

「でへっ、ひどいなあ…♪

こう見えても人間のころは、

村一番の美女だったんだとお？ ドウフへへへへッ♪」



カウラ

「……………」



マ ヤ

「あっ、そうだあ♪ オラは、え〜っと…、
マヤっていうんだどお♪」



マ ヤ

「なんとか…四天王？ のひとりでえ～、
みんなからは、性欲魔獣とか呼ばれてるどお♪」
ドウフへへへへッ♪」



カウラ

「！？ 四天王？

あのトリ野郎の仲間か！！」



マ ヤ
「トリやろう……？」



マ ヤ

「ああっ!! 焼き鳥の姉ちゃんのことけえ♪」



カウラ

「……………」

アイツ……………」

仲間からも 焼き鳥 って言われてんのか…。」



マ ヤ

「んん？ あれえ？ よく見たらお前？
ユウシャじゃないどお…！？」



カウラ

「今気づいたのかよ!？」



マ ヤ

「あああ…、なんだあ…、女戦士かあ…。
どうせならあ～、あの聖騎士ちゃんがよかっただよお…。」



カウラ
「あ？」



マ ヤ

「ほらあさああ？ オラァいまオークだろ？
やっぱり、オークが犯すと言ったら女騎士が定番じゃん？」



カウラ
「お、犯す!？」



マ ヤ

「そうだあどお？ だからなあ？

女騎士に近い感じのお、聖騎士ちゃんと

一発やりたかったって話なんだべえ♪ デへへへへえ♪」



カウラ

「……………、悪かったなあ… 女騎士じゃなくてよ…、」



マ ヤ

「あああ、でもお…、プライド高そうなオメエも…、
女騎士みたいで 高ポイントだべえ♪
デヘヘヘえ♪」



カウラ

「.....。」



カウラ

「さっきから、勝手なことをベラベラと……、」



カウラ

「あんま なめんじゃねえぞっ!!
この豚野郎がああああああっ!!!」



マヤ
「フゴッ! ?」



カウラ

「くらえっ!! 必殺兜割り!!!」



ブンツ



ガシツ



カウラ

「なっ！？ 俺の攻撃を！？」



マ ヤ

「デェへへへエ♪

今のが…、こ～う～げ～きい～？」



マ ヤ
「こうげきってのは……………」



マ ヤ

「こうやるんだべさああああっ!!!!」



ズドンッ！！



カウラ

「グァアアアアアッ!？」



マ ヤ

「ドウへへへへエ♪

オラァは、四天王一の力持ちなんだべえ？

オラとカ比べをするなんて、愚かなことだぁ♪」



カウラ
「く、くそう…、
この俺が…こんな奴の…一撃で……………」



マ ヤ
「デヒヒヒヒッ♪
さあ～てえ♪」



マ ヤ
「レイプタイムの始まりだべさあ♪」



カウラ
「!？」



マ ヤ

「ハア…ハア…ハア……。」



ニヨキニヨキニヨキ…、



カウラ

「なっ！？なんだそれ!!!

ふ、ふざけんな!!!!」



マ ヤ
「ドウヒヒヒヒイ♪」



カウラ

「や、やめろっ……、来るな……、」



カウラ

「くるなああああああああああああつ!!!!」



ガバツ



カウラ

「くっ、はなせええええっ!!
この豚野郎!!!」



マ ヤ

「もお～、ちがうだよ～？

そこは…、『くっ殺せ』ってセリフなんだべさあ～！」



カウラ
「なに、わけのわからないことを…!!!」



マ ヤ

「デヘヘヘエツ♪ でもお…、
いい雌の匂いだべえ♪ 興奮するでえ♪」



カウラ
「やめろおおっ!!! 嗅ぐんじゃねえ!!!!
クソ野郎!!!!」



マ ヤ

「ハア…ハア…ハア…、ダメだべえ…
もう我慢できないべえ…♪」



カウラ
「!？」」



マ ヤ

「入れちゃうどお？入れちゃうどお？入れちゃうどお？
入れちゃうどお？入れちゃうどお？入れちゃうどお？
入れちゃうどお？入れちゃうどお？入れちゃうどお？」



カウラ

「や、やめろお!! たのむから、やめてく……。」



マヤ

「んっほおうっ♪」



ぐちゅっ



カウラ

「んああああああああああっ!？」



マ ヤ
「あおうっ♪
きつすぎるどお♪」



マ ヤ
「ううううううう…、
くそう…俺の処女があ…。」



マ ヤ

「んなあ？ ねえちゃん…処女だったんずらかあ？
オラのイチモツがでかすぎて、気がつかなかったとお。」



カウラ
「い、痛テェ…
ぬけよお、この野郎う……っ。」



マ ヤ

「なあにってるべえ？

オラァがまだ満足してないべえ♪

本番はこれからだあ~~~~、いけどお~♪」



グチュ、クチュツ、パンツ、パンツ、グチュ、クチュツ、
パンツ、パンツ、グチュ、クチュツ、パンツ、パンツ、



カウラ

「うああっ、んんあっ! ?」



グチュ、クチュツ、パンツ、パンツ、グチュ、クチュツ、
パンツ、パンツ、グチュ、クチュツ、パンツ、パンツ、



マ ヤ

「うおほおっ♪ やばいべえ♪ 最高だべえ♪」



カウラ

「うああっ…、あああっ

や、やめるおおおっ、

も、もう…やめてよお～～っ!!」



マ ヤ

「でへえ？ なんかおめえ～、かわいくなってきたなあ？」



カウラ
「うううっ、ううっ…
おねがいだよお、もうやめて……。」



マ ヤ

「おほおおっ♪ かわいいべえ♪
俄然燃えてきたべええええっ!!!」



グチュ、クチュツ、パンツ、パンツ、
パンツ、パンツ、グチュ、クチュツ、



カウラ

「あああああああつ!!!

イタしいイタしいイタしいイタしいイタしい!!!」



カウラ

「もういやだあああああああ!!
ゆるしてえええええええっ!!!」



マ ヤ
「や、やばいべえ…
もう、でそうだ…べえ…、」



カウラ
「へ！？ できる？」



マ ヤ
「うらうらうらうっ…」



カウラ

「(デル？精子？豚の？ザーマン？

膣内に？孕む？妊娠？豚の子？出産？)」



グチュ、クチュツ、グチュ、クチュツ、



カウラ

「イヤァァァァァァァァァァァァッ!!!
お願い!!!膣内にださないでええっ!!!」



マ ヤ

「で……………でるっ……………」



カウラ

「イヤッイヤッイヤアアアアアッ!!!」



プリュッ



カウラ

「きやああああああああああ
あああああああああああっ!!!」



ドクドクドクドクッ……



カウラ
「ああっ……ああ……。」



マ ヤ
「ふい〜♪ よかったどお〜♪
ってあり？」



カウラ

『.....』



マ ヤ
「気絶してしまったとお……、」



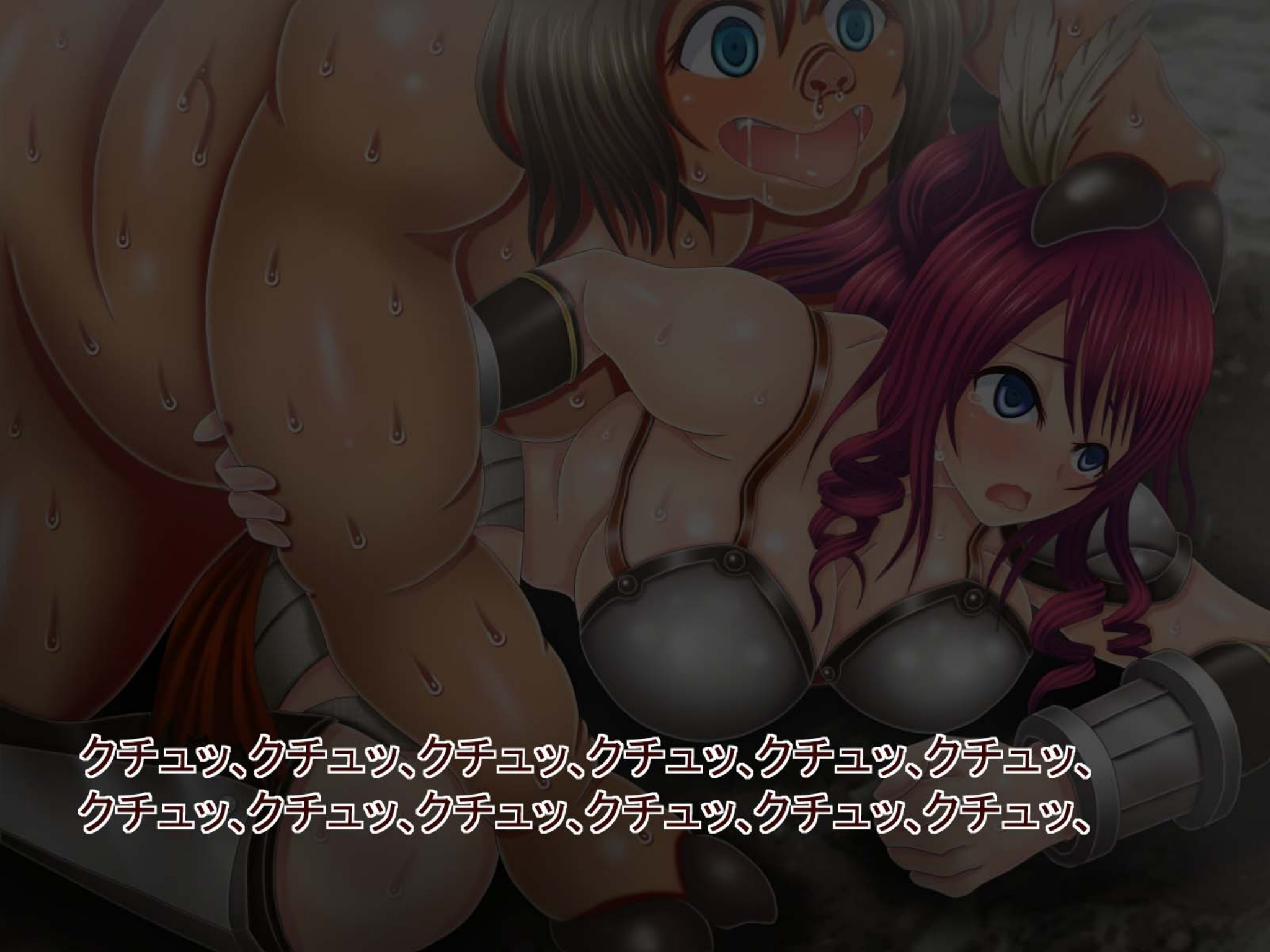
マ ヤ

「んん〜…、まっ、いっか♪

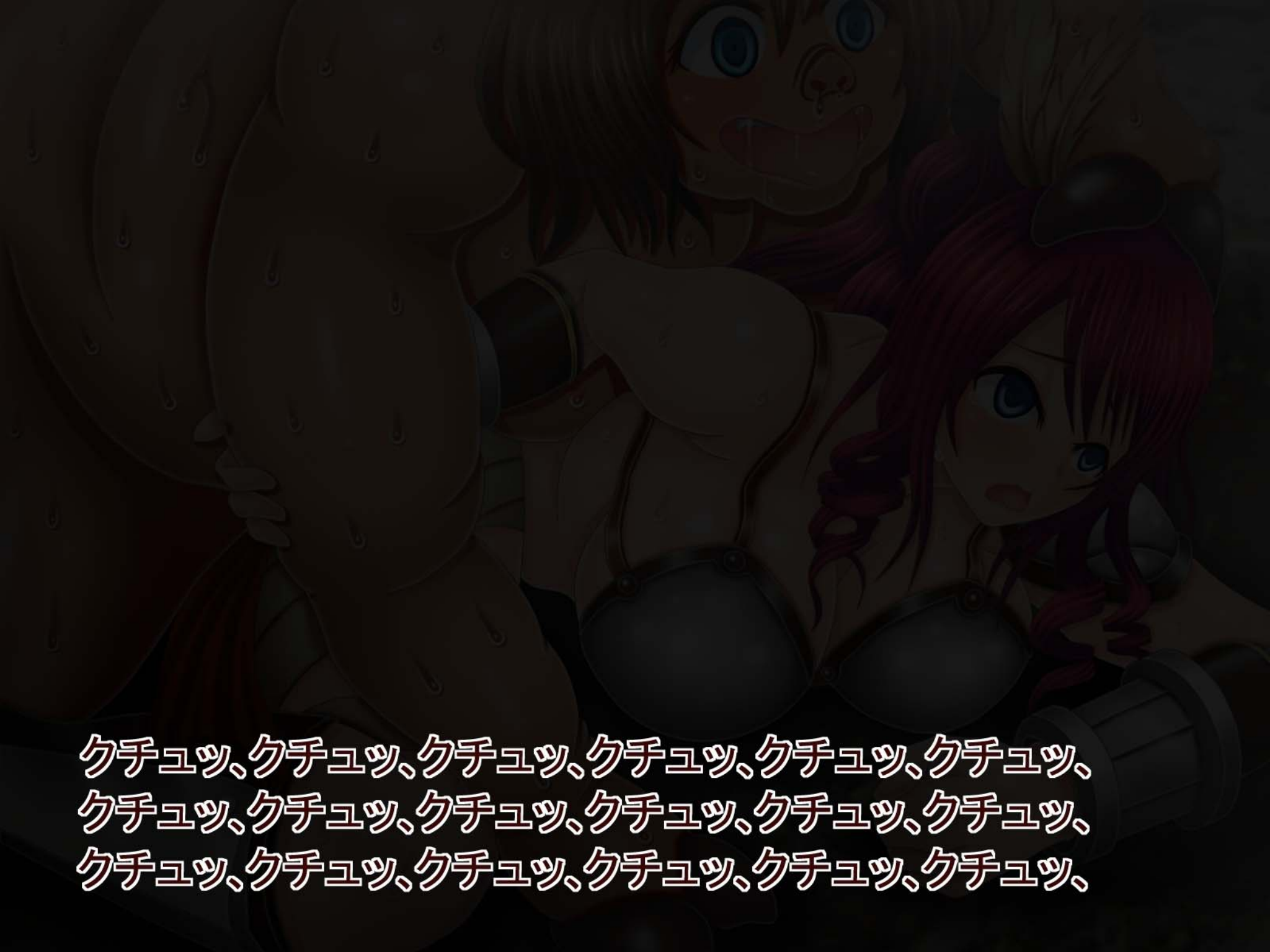
オラが満足するまで、しっかり使ってやるうんどお♪」



クチュツ、クチュツ、クチュツ、クチュツ、クチュツ、クチュツ、



クチュツ、クチュツ、クチュツ、クチュツ、クチュツ、クチュツ、
クチュツ、クチュツ、クチュツ、クチュツ、クチュツ、クチュツ、



クチュツ、クチュツ、クチュツ、クチュツ、クチュツ、クチュツ、
クチュツ、クチュツ、クチュツ、クチュツ、クチュツ、クチュツ、
クチュツ、クチュツ、クチュツ、クチュツ、クチュツ、クチュツ、

暗黒四天王『性欲魔獣マヤ』戦……。

カウラ敗北……。